

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成30年12月)

～暖冬や株安で現状判断は低下。消費増税への懸念も高まる～

- 景気ウォッチャー調査・12月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が3か月ぶりの低下、先行き判断も2か月ぶりの低下となった。
- 足元の景気については、暖冬傾向が続いていることで、コートなどの重衣料や防寒関連を含む、季節商材の動きが今一つとなっている。また、折からの株価の下落が、ボーナス商戦や年末商戦に水を差した形となった。その一方で、インバウンドの動きは概ね堅調に推移しているものの、かつてに比べると前年比の伸び率はやや鈍化しており、全体を大きく押し上げるまでには至っていない。
- 先行きについては、依然として不透明感が強いなかで、特に株価の下落が心理面に大きな影響を与えるとの不安が多い。インバウンドについても、概ね堅調な動きが予想されている一方、中国での税制改正に伴い、まとめ買いが減りやすくなるとの見方が出ている。また、消費増税に向けた動きとして、駆け込み需要が出てくるとの声が増える一方、増税が近づくことでの生活防衛意識の高まりも指摘されており、懸念材料とみる動きも少なくない。
- その一方、米中間の貿易摩擦をはじめ、世界情勢が不安定化する中で、その悪影響を懸念する声が広がっている。株安などへの波及をはじめ、インバウンドの動きの鈍化、製造業関連での受注への影響など、幅広い業種から懸念の声が上がっている。

「暖冬」関連のコメント(現状判断)

や や 良 く な っ て い る	百貨店(服飾品担当)	・12月のボーナス商戦やクリスマス商戦では、気温が全国的にやや高く、前半は少し苦戦したが、後半はギフト売上が伸び、好調に推移した。その一方、例年ギフト需要を引っ張っているアクセサリーやジュエリー関連の動きは二極化している。ラグジュアリー系は人気ブランドを中心に伸びた一方、国内ブランドは販売個数が伸びたものの、ブラチナ系から10金などの手が届きやすい商材にウエイトが移り、単価の低下につながった。それに対し、防寒関連は厳しいが、優待などの仕掛けで売上は前年以上となった。化粧品も7～9%増となるなど好調を維持したため、年末商戦は全体でプラスとなりそうである。
	家電量販店(人事担当)	・4K、8K放送の開始に伴い、4K対応テレビへの関心が高まっている。また、急に気温が下がり、暖房器具の購入のための来客数が伸びている。
家 計 動 向 関 連 変 わ ら な い	百貨店(売場主任)	・今月は目標を達成する見込みである。インバウンド需要の好調により、化粧品や特選洋品などの売上規模の大きなゾーンが好調で、売上全体をけん引している。その反面、アパレルや雑貨では、気温の影響もあって季節商材が振るわなかった。特に、国内客の消費は厳しさが更に増しているように感じる。
	百貨店(売場主任)	・12月26日現在、入店客数は前年比で1.3%減とやや悪いが、増床効果で売上は0.7%増と前年を上回っている。12月前半は気温が高いことも影響し、衣料関連が苦戦した。27日は来客数、売上共に好調であるなど、年末の寒波による影響の可能性は出ているものの、例年どおりの年末となりそうである。
	百貨店(商品担当)	・ラグジュアリー関連や高級時計、化粧品は好調を維持し、クリスマスや催事、迎春関連などの食品も順調である。一方、暖冬傾向により、ファッション関連、特に防寒アイテムは全般的に厳しい。12月はギフトや季節イベントで国内需要が高まるため、インバウンドのシェアは低下傾向にあるが、前年を上回る動きは続いており、依然として全体を下支えする形となっている。
	百貨店(販売推進担当)	・暖かい日が続き、婦人防寒衣料、雑貨などは苦戦しているが、インバウンドの需要で特選輸入ブランドや化粧品の動きは堅調である。今秋に改装を実施した高級時計や子供服も好調に推移し、全体の入店客数、買上単価共に前年をクリアできている。
	百貨店(宣伝担当)	・食料品や化粧品などの消耗品や、インバウンドの売上シェアの高い特選品、宝飾品は好調であるが、暖冬の影響で衣料品の苦戦が続いている。ファッション商材については、国内のボリューム層の消費が依然として鈍い。

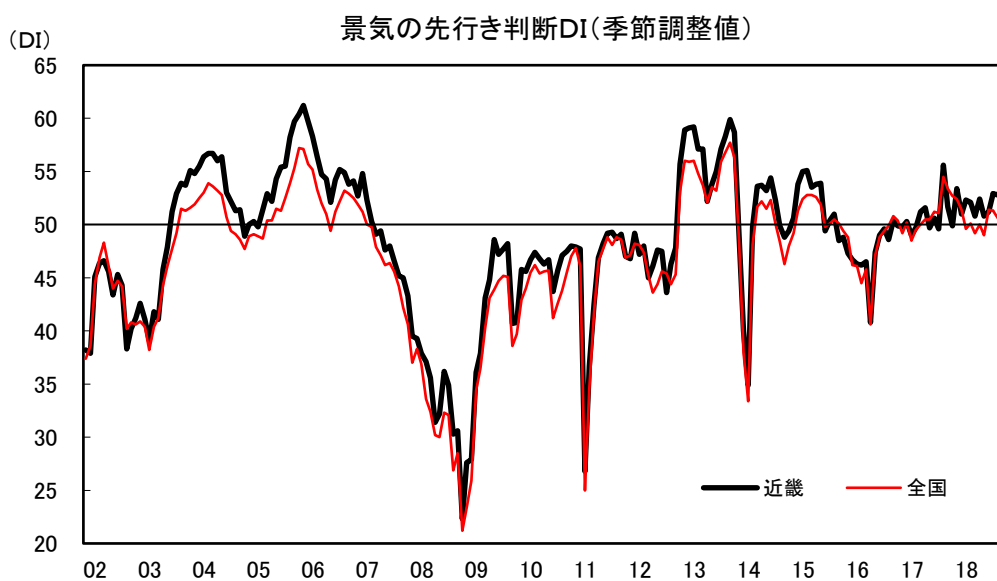
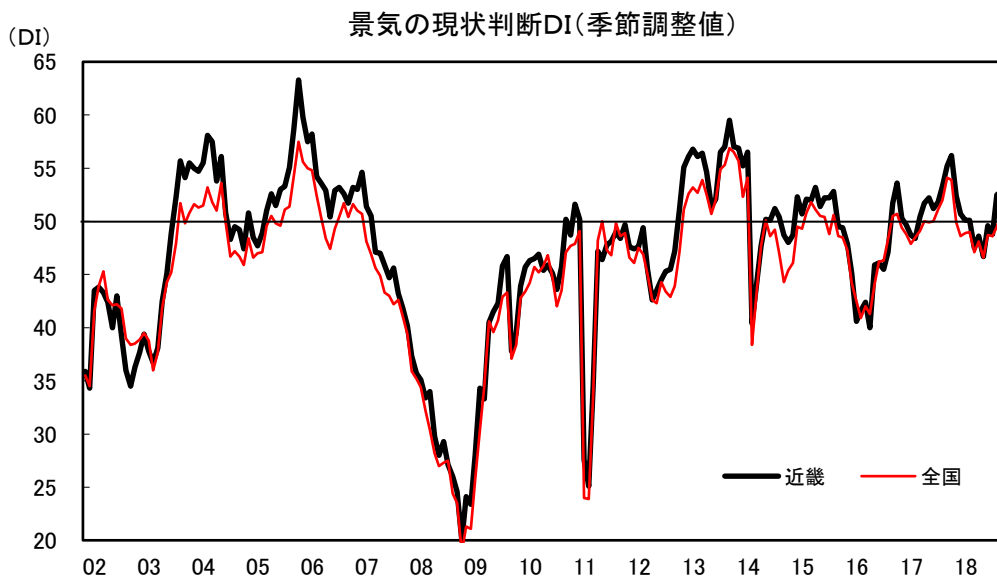
家計動向関連	変わらない	百貨店（販促担当）	・やや高めの気温の影響で、冬物商材の動きが継続的に鈍い。防寒衣料や雑貨に加え、鍋物商材などの生鮮食品も苦戦している。特に、食品は野菜の価格が安く、客単価の押し下げ要因になっている。さらに、お歳暮ギフトは年々縮小傾向にあり、今年も例外ではなく苦戦しているが、クリスマスギフトは比較的堅調に推移している。
		スーパー（店長）	・競合店の改装や家電量販店の出店、暖冬の影響で、衣料品や住関連の季節品が苦戦しており、来客数の減少が続いている。また、野菜の単価ダウンの影響で、1品単価や客単価の低下にもつながり、売上が苦戦している。
		スーパー（社員）	・前月に続き、例年に比べて気温の高い日が続いている。天候も安定した日が多く、客の来店は堅調である。ただし、野菜を中心に生鮮食品の価格が下がっているため、前年の売上を確保できない店舗が増えている。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・暖冬の影響で、中旬は冬物商材の動きが鈍かった。ただし、洗剤や仕上剤などの動きは良い。また、24日頃から気温が下がり、カイロやマスクなどの動きが良くなりつつある。
	やや悪くなっている	一般レストラン（経営者）	・飲食店は天候に左右されやすい。12月初旬は天候も良く、冬の割には暑い日もあり、ランチ客や夜の客も含めて来客数は増えたが、一気に寒くなると、商店街の人通りもまばらになった。年末も、いつもと変わらない人通りとなっている。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・年末の季節商材の売行きが良くない。暖冬の影響か、クリスマスや正月の季節感が乏しいことが要因である。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・前年の12月は防寒具が好調で、年末商戦は好調であったが、今年は最悪である。暖冬の影響で、コート以外のニットなども最悪の数字となり、同業他社を含めて、早期に値下げせざるを得ない。
		百貨店（売場主任）	・インバウンドの好調さは続いているものの、国内消費は株価の低迷や暖冬の影響で、高額品、ファッション共に伸び悩んでいる。ただし、クリスマスケーキなどのファミリー需要は好調である。
		百貨店（企画担当）	・国内客の動向は、暖冬の影響もあって前年から微減である。クリスマスの20～25日だけは来店客も多く、にぎわったものの、売上が伸びたのは年明けのセールがない特選ブランドがほとんどで、ボリュームゾーンの商品群は苦戦が続いている。外国人売上でも、売上が伸びているのは化粧品を中心とする消耗品のみで、一般品はほぼ前年並みの売上となっている。
		百貨店（営業担当）	・継続してマーケットをけん引している富裕層とインバウンドは、これまでの勢いに比べると弱含みの動きがみられるほか、暖冬の影響で重衣料や防寒用品の苦戦が続いている。
		百貨店（マネージャー）	・時計や宝飾品などの高額品の売上は好調で、客単価は前年比で4.9%上昇した。ただし、買上客数は2.3%減と悪化している。12月に入っても気温が下がらず、冬物コートや羽毛布団などのファッション、リビング関連の動きが悪く、全体ではやや悪化している。
		百貨店（外商担当）	・気温が高い日が多く、冬物衣料の売行きが悪くなっている。美術品、宝飾品の高額受注も、前年と比べて少なくなっている。
		スーパー（企画担当）	・12月は暖冬の気配であり、食品関連では鍋商材の動きが鈍い。また、青果に関しては相場が下がっており、売上が伸びていない。おせち料理の予約状況は前年比で92%となっており、高価な三段重などは前年の半数にとどまるなど、年々需要が減っている。
		スーパー（経理担当）	・暖冬や、野菜の相場安といった季節要因もあり、全体的にクリスマスから年末商戦の盛り上がり欠ける。
悪くなる	スーパー（企画）	・気温の高い状態が続き、特に12月は冬物商材の不振で売上全体が悪い。	

「消費税」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	やや良くなる	百貨店（売場マネージャー）	・消費税の引上げ前になることもあり、直近の傾向と同様に、ある程度は好調に推移すると予想される。
		百貨店（宣伝担当）	・改元に向けた祝賀ムードにより、客の購買意欲が高まるほか、消費税の引上げに向けて、高額品や早期受注品、特注品などの需要が本格化する。
		家電量販店（経営者）	・消費税の引上げを控え、増税前に大型家電の購入やリフォームを検討する客が増加傾向にあるため、景気は少し良くなる。
		家電量販店（企画担当）	・消費税の引上げに際し、政府は駆け込み需要の抑制策を検討している。ただし、平成最後の年末年始商戦を迎えることもあり、消費の増加につながる。各販売会社による売場の雰囲気作りによって消費意欲が高まり、景気の改善につながる事が予想される。
		乗用車販売店（販売担当）	・消費税の引上げの年になるため、買換え需要が増える。
		乗用車販売店（営業担当）	・新年の初売りに続いて、消費税の引上げ前の駆け込みが始まるタイミングとなる。
		住宅販売会社（総務担当）	・消費税の引上げに伴う駆け込み受注が続くことが予想される。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・消費税の引上げの経過措置による駆け込み需要が出てきたため、今年度は前年比で増加することが予想される。

家計動向関連	変わらない	一般小売店 [時計] (経営者)	・客との話の中で、年金だけで暮らすのは難しいという話題が多い。目先に必要な資金と、いつ起こるか分からない災害への不安、来年に控えている消費税の引上げなどで、生活の防衛が最優先となっているため、すぐに必要でなければ、時計が売れる見込みはない。
		百貨店 (マネージャー)	・年末にかけての株価の下落や、消費税の引上げ後の不安感から、より一層慎重な購買姿勢になるため、初売りの結果が目される。
		百貨店 (販売推進担当)	・世界的な経済環境や株価の先行きは不透明で、安心できない。ただし、一般的な国内消費は、消費税の引上げ前の駆け込み需要もあり、しばらくは堅調に推移しそうである。
		スーパー (店長)	・米国の大統領による発言に、世界経済が敏感に反応し、株価の乱高下を招いている。また、来秋の消費税の引上げが先行きの不安材料となり、消費者も財布のひもを締めざるを得ない。
		スーパー (経理担当)	・消費税の引上げ対策が打ち出され、関連の報道が増えてきている。駆け込み需要の動きが始まるまでは、節約意識の高まりで消費が伸び悩む可能性がある。
		スーパー (企画)	・良くなってほしいが、10月の消費税の引上げに向けて不要不急の消費を抑える傾向となる。直近は変わらないが、夏前から本格化する。
		コンビニ (店長)	・年が明けても、消費税の引上げまでは消費にそれほど変化はないような気がする。
	観光型ホテル (経営者)	・消費者は、消費税率の引上げに向けてどのように推移するのかという不安を抱えつつ、様子を見ていて感じる。	
	やや悪くなる	百貨店 (マネージャー)	・株価の下落が続くようであれば、好調な時計や宝飾品などにもマイナスの影響が出てくる。ただし、来年の消費税の引上げが迫るなか、先行購入の効果も出るため、大きなマイナスにはならない。
		百貨店 (営業企画)	・米国の株価急落をきっかけに、米国の景気悪化が懸念されている。消費税の引上げが個人消費に与える影響も心配され、楽観できない状況となっている。
		スーパー (店長)	・世界情勢は不透明で、不安感が漂っている。また、消費税の引上げ関連の話題が増えることで、生活防衛意識が高まりそうである。
		その他専門店 [宝石] (経営者)	・米国の株安による影響を日本はまともに受けるため、今の不安定な傾向は急には変わらない。来年は消費税率が上がることもあり、どちらからみても、景気が良くなる見通しは立たない。
		一般レストラン (経理担当)	・来年10月に予定されている消費税率の引上げに伴い、その前後には駆け込み需要とその反動減が予想される。実質所得の減少に直結するため、その不安から、こしばかりは消費の低迷が予想される。現実として、景気の良い産業や業種は一部で、全体的に個人所得が増えなければ景気が上向いているとは判断しにくい。
		テーマパーク (職員)	・消費税の引上げの報道が増えていることで、最終的な決断が近づくにつれて、消費は一時的であるにせよ、確実に減退傾向となる。大きな見方をすれば、景気は金を使い、循環させていくことで生まれるが、過去の経験では、消費税率を上げれば必ず消費が落ち込む。
その他住宅 [情報誌] (編集者)		・富裕層の消費マインドが悪化する可能性があるほか、消費税の引上げに向けた懸念が広がりそうである。	
悪くなる	衣料品専門店 (経営者)	・年末が迫っても、全く景気が上向いている実感がない。政府から発表された来年度の消費税の引上げ対策は、どれも消費者の心をつかめていない。また、ある銀行では手数料の54%の値上げが予定されているほか、メール便のサービス料も100%の値上げが予定されている。	
企業関連	変わらない	出版・印刷・同関連産業 (企画営業担当)	・消費税の引上げの関連で、印刷物の受注制限が予想されるため、年度末の駆け込み需要は見込めない。
		金融業 [投資運用業] (代表)	・与党の支持者ですら、消費税の引上げや事実上の移民受入れ策には疑問を感じている。景気浮揚の動きに冷や水を浴びせたといっても過言ではなく、2～3か月先どころか、2～3年先の東京オリンピック景気の恩恵についても疑問である。
	やや悪くなる	食料品製造業 (経理担当)	・現首相は消費税の引上げ対策を繰り返し発表しているが、景気上昇につながる物はみえない。
悪くなる	経営コンサルタント	・消費マインドが冷え込んでいる。理由を考えると、消費税の引上げや国際的なマイナス要素などで慎重になっている。結果として出費を引き締める動きになっており、この状態はしばらく続く。	

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		16年17年												18年												
		12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
現状判断	近畿	53.6	50.3	49.7	48.7	48.4	50.4	51.7	52.2	51.2	51.8	53.3	55.2	56.2	52.4	50.7	50.1	50.1	47.5	48.6	46.7	49.6	48.8	52.5	52.8	50.5
	(全国)	50.7	49.4	48.8	47.9	48.5	49.1	50.0	49.9	50.0	51.1	52.0	54.1	53.9	49.9	48.6	48.9	49.0	47.1	48.1	46.6	48.7	48.6	49.5	51.0	48.0
先行き判断	近畿	49.9	49.8	50.3	49.0	49.7	51.2	51.6	49.7	50.6	49.6	55.6	51.7	49.9	53.4	51.0	52.3	52.1	50.8	52.4	50.8	51.2	52.9	52.8	53.4	46.3
	(全国)	50.4	49.2	50.2	48.5	49.5	50.0	50.5	50.5	51.2	51.1	54.5	53.4	52.7	52.4	51.4	49.6	50.1	49.2	50.0	49.0	51.4	51.3	50.6	52.2	48.5

※季節調整値